

# 日本家族社会学会ニュースレター

No. 30      2003. 5..      編集・発行 日本家族社会学会事務局  
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学部社会学・山田昌弘研究室  
電話：042-329-7422      FAX：042-329-7429

NEWSLETTER

## 日本家族社会学会第13回大会

第13回大会のご案内  
大会ニュース No.2

日本家族社会学会第13回大会実行委員会  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
大阪市立大学  
委員長 畠中 宗一

2003年度第13回大会は、大阪市立大学で開催されます。学会員の皆様はふるってご参加くださいますようお願いいたします。

1. 日程    2003年9月6日(土)、7日(日)
2. 会場    大阪市立大学(杉本キャンパス)  
JR杉本町駅前より徒歩5分  
新大阪から小1時間、関西国際空港から40分程度
3. 参加費    4000円  
昨年に引き続き、事前払い方式の申し込みは行いません。なお、大会プログラムを送付する際に、出席とお弁当の注文については受付いたします。当日の出席人数予測のため、葉書の返送にご協力お願いいたします。
4. 懇親会    2000円  
懇親会は、同キャンパス内の大学生協食堂で行いたいと思っております。大会会場からの移動の煩わしさがありませんので、皆様、ふるってご参加ください。
5. 宿泊  
今回は、特に仲介は致しません。  
比較的便の良いホテルを以下にご紹介致します。

長居パークホテル 06 - 6608 - 1117

JR 阪和線長居駅から徒歩1分（長居駅までは、大学から JR 阪和線天王寺行き5分程度）

天王寺都ホテル 06 - 6628 - 3200

J R ・地下鉄天王寺駅から徒歩で2分

ホテルグランヴィア大阪 06 - 6344 - 1235

J R大阪駅直結

大阪新阪急ホテル 06 - 6372 - 5101

J R大阪駅北出口正面

ホテル日航関西空港 0724 - 55 - 1111

関西国際空港に直結

#### 6. 発表に用いる機器

こちらで用意できる機器は、OHPとスクリーンのみです。OHPの使用については、申し込み時に、必ずその旨を書いてください。パワーポイント、スライド、その他の機器の使用については、必ず大会事務局とご相談の上、すべての機器を持ち込み、ご自分の責任で調整していただくことになります。

#### 7. 発表・報告者配布のレジュメ

レジュメに関しましては、発表・報告者の責任で必要部数用意してください。部数が不足となった場合も、大会会場校の方で用意することは致しませんので、ご了承ください。コンビニエンス・ストアは、2店舗（ローソン・セブンイレブン）ございます。いずれも会場からは、徒歩10分程度です。

#### 8. お問い合わせ

大会についての事前の問い合わせは、大阪市立大学島中宗一までメールでお願いします。

（FAXでの受付はいたしておりません。）

## 研究活動委員会からのお知らせ

今年度の大会（第13回大会）にむけて研究活動委員会では着々と準備をすすめています。その進捗状況と関連するお願いならびにシンポジウムのテーマなどについてお知らせいたします。なお、大会プログラムについては8月上旬に全会員あてご送付いたします。

#### （1）個別自由報告の受付期間の延期について

5月6日をもって個別自由報告の受付を締め切りました。多くの方がたの申し込みがありました。また会場に余裕があります。そこで、6月10日（厳守）まで申し込み受付を延期することになりました。報告可能な方は、ぜひ申し込みをして下さい。申し込みは、日本家族社会学会のホームページ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsfs2/>）からお願いします。なお、この件に関するお問い合わせ先は研究活動委員会事務局（〒464-8601 名古屋市東区東桜1-1-1）です。

## (2) テーマセッションについて

現時点で複数のテーマセッションが組織されています。そのうちのひとつについて、下記の通り、報告者を公募しております。詳細はコーディネーターの稲葉氏に直接お尋ねください。

テーマ：NFRJ98からの提言(2)

企画のねらい：NFR98データの作成・利用を通じて浮上してきた、研究者が共有しておくべき研究課題・情報を交換・議論することで、家族研究の方法論を深めたい。

コーディネーター：稲葉昭英（東京都立大学）

連絡先Eメール：j

## (3) シンポジウムについて

ご存知のように昨年来、向こう3年間にわたっての共通テーマとして「現代社会における家族および結婚の意味（存在理由）について問う」というテーマを掲げてきています。本年度は、その2年目にあたります。

この共通テーマが家族否定や結婚否定の論議を期待しているわけではないことは、昨年「大会ニュース No.2」においてご案内したとおりです。しかし昨年は、どちらかというところが近代結婚についてではありましたが、結婚否定あるいはポスト近代結婚の論議に集中しました。そこでは極めて有意義な論議が展開され、予定どおり今日、なぜ結婚の意味が問われなければならないかを明らかにする方向に舵を取ることができたと考えております。

今年度は、そこでポスト近代ではなく、まさに今日の結婚の意義について問う作業に入りたいと思います。現代社会における結婚について問う場合、いくつかの軸を考えてみました。第一は、性別の違いによる軸であります。それは男性という視点からみる結婚の意義を問う、ならびに女性という視点からみる結婚の意義を問うということになります。第二は地域の差異による軸で、都市部か農村部かの違いという視点からみる結婚の意義を問うということになります。

時間的制約のために報告者を4名に限定していますので、第一の性別の軸は、都市部における結婚の意義を中心に論じていただきます。したがって、第二の地域の軸では、農村における結婚の意義を問うということになります。そして第三は、社会変動という軸であって、第一および第二の軸が今日における結婚の意義そのものを問うのに対して、結婚の意義を歴史的な視点から問うということになります。

ご登壇していただくのは、「男性にみる」を伊藤公雄（大阪大学）さん、「女性にみる」を神原文子（神戸学院大学）さん、「農村にみる」を篠崎正美（熊本学園大学）さん、および「歴史にみる」を落合恵美子（京都大学）さんであります。そして司会役は、岩上真珠（聖心女子大学）さんと岩井紀子（大阪商業大学）さんのお二人であります。昨年と同様にコメンテータは設定いたしません。フロアの参加者が全員コメンテータであると考えています。

今年度も、自然した議論が展開する魅力的なシンポジウムになると信じています。大いに期待してご参加くださいますようにご案内いたします。  
(野々山久也・甲南大学)

## 理事会報告

## 委員会より

### 編集委員会

東組と西組の編集二元体制に移行して初めての、東組による 15 巻 1 号の編集作業もほぼ終えたところです。次号 15 : 2 (来年春発行予定) は西組の担当で、投稿は 6 月 1 日で締め切られます。さらに次々号 (16 : 1) は 12 月 1 日が締切日となっていますので、今から準備していただき、是非ふるってご投稿ください。

最近に掲載可能論考数を越えた多くの投稿があります。編集委員会としては嬉しい限りで、意欲的に投稿いただいた論文を全て掲載できればというのが幸いです。しかし経費問題や査読態勢問題を始め、そうするにはこえねばならないハードルも多く、残念ながら現時点では即応できる状況にはありません。発行回数を増やす、投稿受付締め切り日方式から随時受付方式に切り替える、会費の値上げをする、等々いろいろな議論があるのですが、編集委員会だけでは片づかない問題も多く、時間をかけて整理していきたいと思っています。

他方、増加する投稿数現象に問題が無いわけではありません。特に指摘しておきたいのは、投稿前の準備が必ずしも十全でない論文があることです。このことは以前にも触れたことがありますので詳しくは繰り返しません。執筆要項の遵守ができていないもの、完成度の低いままでの投稿などです。とりわけ顕著に目立つのは、規定枚数のオーバーで、編集委員会では規定枚数オーバーの原稿には厳格な態度で臨んでいます。それやこれやで、査読委員のコメントに対応できずに第一次査読でリタイアしてしまう論文が、最近では毎号数本見受けられます。そうしたケースが毎号出るとなると、一方では査読コメントに対する回答に与えられる時間の制約問題など、システム上の問題も大いに考えられるのですが、一方で論考の準備不足も感じています。なかでも若い研究者の場合、まだ投稿という行為が慣れないこともあるでしょう。是非指導教官や仲間のアドバイスを心得、完成度の底上げをお願いしておきたいと思います。

もう一つの話は、国際化時代にあって機関誌の国際化をどうはかっていくかというものです。現在当機関誌は、日本学術振興会からの定期学術刊行物刊行助成を受けて発行されています。その関連もあって、機関誌の国際化は重要な課題です。現在、いくつかの工夫、企画を考えているのですが、どう安定的に国際化路線を定着させるか簡単ではありません。なにかいいアイデアがあれば、是非お寄せください。

(清水新二・奈良女子大学)

### 庶務委員会

庶務委員会は、今期、次の課題について検討して参りました。

第 1 の課題は、「日本家族社会学会選挙規定」および「日本家族社会学会会則」の改正であります。

この件につきましては、すでに『日本家族社会学会ニュースレター』第 29 号 (2002.11.30) と同封しました「会則及び理事選挙規定の一部改正について」でお知らせし、会員の皆様からご意見を頂くことにしました。幸い、貴重なご意見を頂くことができましたので、頂きましたご意見に基づいて先般の理事会で審議した結果、前回事業案として纏めました改正案を再度検討し、本年度の総会に

提出することになりました。

総会提出までの段取りは、7月下旬から8月初旬に開催予定の事務連絡会で改正案を審議し、その結果を次回発行の『日本家族社会学会大会ニュース』に同封して会員の皆様にお知らせするとともにご意見を伺い、大会前の理事会で審議して総会に提出するという日程を考えております。

第2の課題は、学会活動点検会員アンケート調査の実施と分析です。

この件につきましては、当初の予定より遅れての実施となりましたが本ニュースレターに同封しました。アンケート調査の趣旨、実施方法等の詳細は、お願いの文書と調査票に記載しました。会長発案による初めての試みですが、趣旨をご理解頂きご協力下さいますようお願いいたします。なお、回収方法として郵送のほか、インターネットによる方式も試行しています。お試しください。

(清水浩昭・日本大学)

## 全国家族調査特別委員会

(1) 全国家族調査の略称を NFRJ に変更しました。

従来、全国家族調査の略称として NFR (National Family Research) を多用し、第1回全国家族調査も NFR 98 と呼び習わしてきました。しかし、調査票およびコードブックの英訳作業が完了したことを機に、NFR を NFRJ と改めることにいたしました。日本の全国家族調査であることを明示するためです。これにともない、たとえば NFR 98 も NFRJ98 と表記することになります。

会員のみなさまには、今後、第1回全国家族調査データをご利用いただく際には、NFRJ98 の表記を用いるようお願いいたします。また、すでに NFR 98 の表記を含む論文などが多数公表されておりますので、検索などの際にご不便をかけることもあるかと思いますが、NFR98 と NFRJ98 とは互換的であることをご承知おきください。

(2) NFRJ98 データに基づく最終成果が刊行されます。

かねてより準備を進めておりました NFRJ98 データに基づく最終成果の刊行が、このたび学術振興会の出版助成費が得られたことにより、実現の運びになりました。『現代家族の構造と変容』(渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子編)と題して、東大出版会より12月出版の予定です。

(3) 全国調査「戦後日本の家族の歩み」(NFRJ-S01)の報告書が刊行されます。

ご承知のとおり、全国調査「戦後日本の家族の歩み」(NFRJ-S01)が2001年1～3月に実施されました。この調査は全国の1920年～1969年生まれ(調査時年齢は32～81歳)の女性5,000人を対象として(回収率69.5%)、結婚経歴、職業経歴、親との同居・近居経歴、家族介護歴といった経歴データ、加えて結婚式、出産と育児、相続などのトピックスについてのデータを収集したものです。これらのデータを出生コーホートあるいは結婚コーホート間で比較し、戦後日本の家族変動の諸側面を記述・分析した第1次報告書が間もなく刊行されます(6月末予定)。本報告書は、9月の大会において希望者に配布する予定ですが、先行して入手したい方には、送料負担のみでお送りいたしますので、本調査幹事役の大久保委員までご連絡下さい( )。なお、調査データの

学会員への公開は9月の大会時から開始いたしますが、詳細については大会時に説明いたします。

(4) 第2回全国家族調査(NFRJ03)実施に向けての準備を進めています。

本年11月のサンプリング、来年早々の調査実施に向けて、5月中には調査デザインや依頼調査会社の決定を行う予定です。

(5) 公開データ(NFRJ98、夫婦関係予備調査)を利用した業績をおもちの方は、学会報告の場合はレジュメ、論文の場合は抜き刷り(コピー可)を2部、NFRJ委員会事務局(早稲田大学文学部嶋崎研究室)までお送りくださるよう、再度お願いいたします。

(藤見純子・大正大学)

### 事務局便りとお願い

事務センター移転の作業が一段落し、現在の所、事務作業は特段の問題もなく、動いております。事務局一同、ほっとしております。みなさまには、連絡先をお間違えなきよう、重ねてお願い申し上げます。

また、会費の振り込みをよろしくお願い申し上げます。振込先が変わりましたので、前年度までの振り込み用紙は使用しないようお願い申し上げます。

現在、機関誌『家族社会学研究』は、学術振興会より定期刊行物出版助成を受けて出版されております。今年度も助成の内定通知をいただきました。ただ、昨年度から、申請書に、学会誌の評価、特に、海外での評価を記載することになっています。

もし、海外の雑誌に機関誌の論文等が引用されているのをおみかけになりましたら、事務局山田までファックス、メールなどでご一報下されれば幸いです。

専修大学文学部より、専任教官の公募依頼が来ております。主担当は、「社会福祉論」1名、「地域社会論」1名です。提出期限6月16日です。詳しくは、専修大学文学部学務課までお問い合わせ下さい。

(山田昌弘・東京学芸大

学)

### 会員異動

## 急告

本年7月7日から北京で開催予定の第36回I I S世界大会は、本学会でも国際交流の機会と捉え、会長はじめ有志による東アジアの家族比較のセッション企画が進んでおりましたが、SARS禍により、丸一年延期という異常事態となりました。

(国際交流担当理事：熊谷苑子)

## 編集後記

事務委託先が新しくなってはじめてのニュースです。名簿補遺とアンケートが同封されていることをご確認ください。アンケートへの協力を是非、お願いします。

学会のホームページをご存じと思います。ホームページ担当は、牟田理事と保田委員です。今後、一層の充実が図られるべく準備が進められていますので、会員の皆様の協力をお願いします。また、ニュースレターへのご意見もお寄せください。

9月、大阪市大で開催される学会大会でお会いしましょう。

(ニュース担当：渡辺秀樹・西村純子)